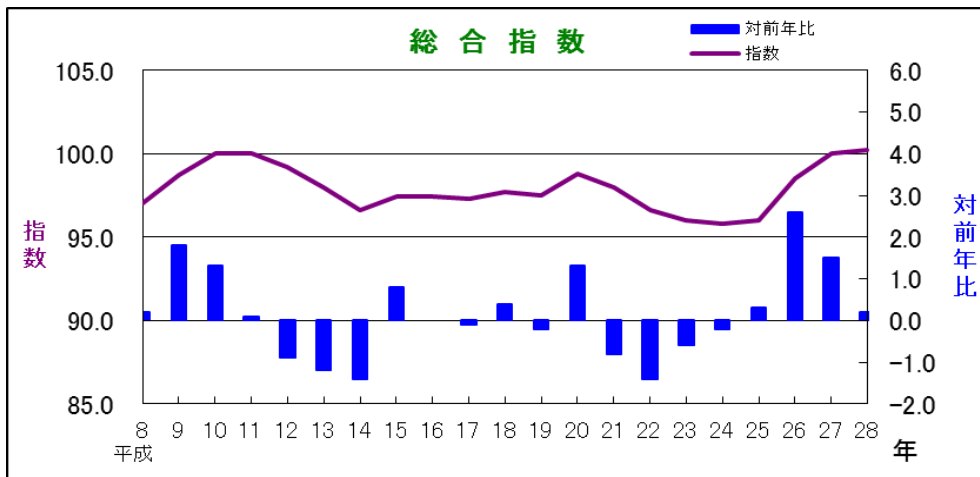
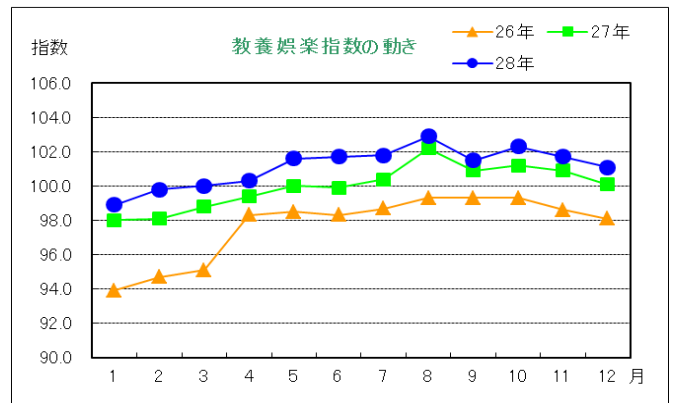
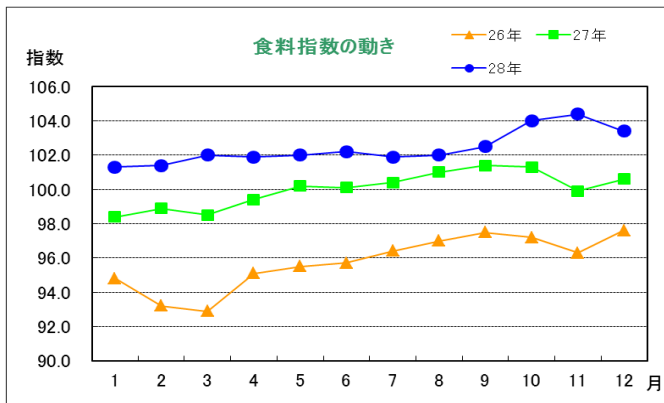


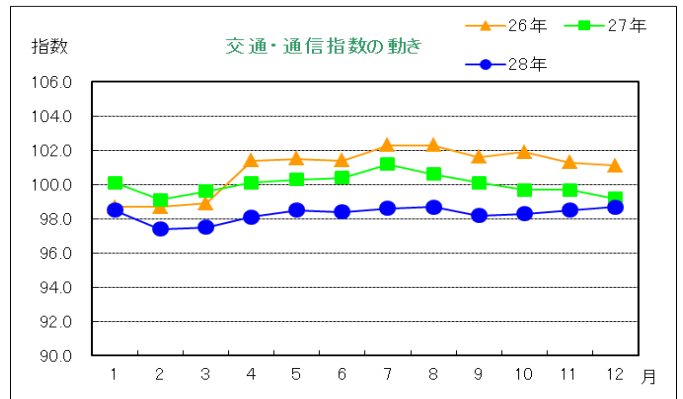
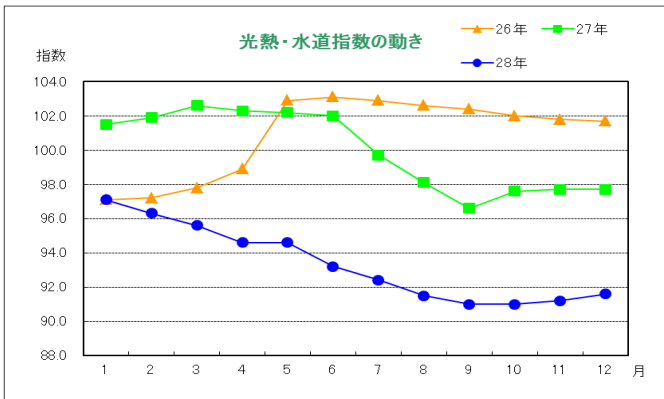
(図-2) 総合指数と対前年比 (平成27年基準) の動き



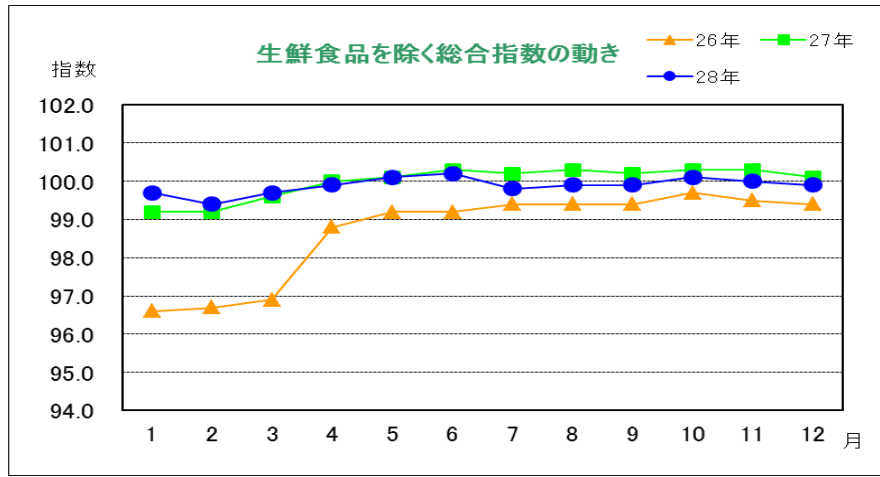
(図-3) 前年を上回って推移した費目



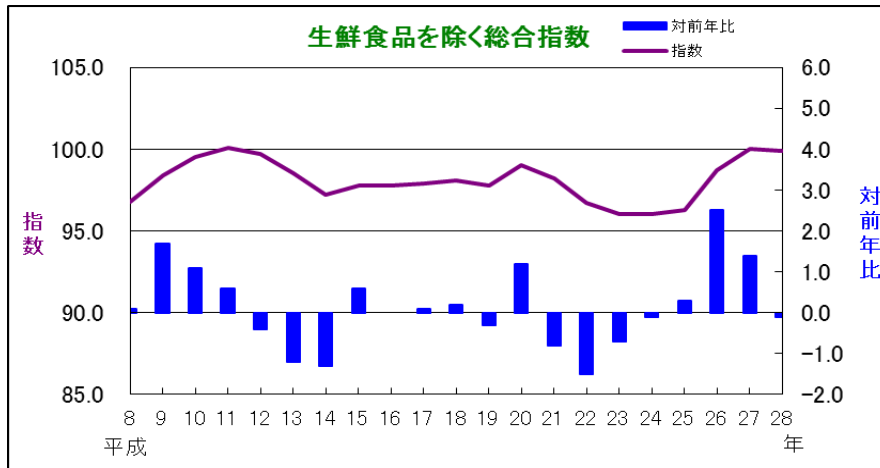
前年を下回って推移した費目



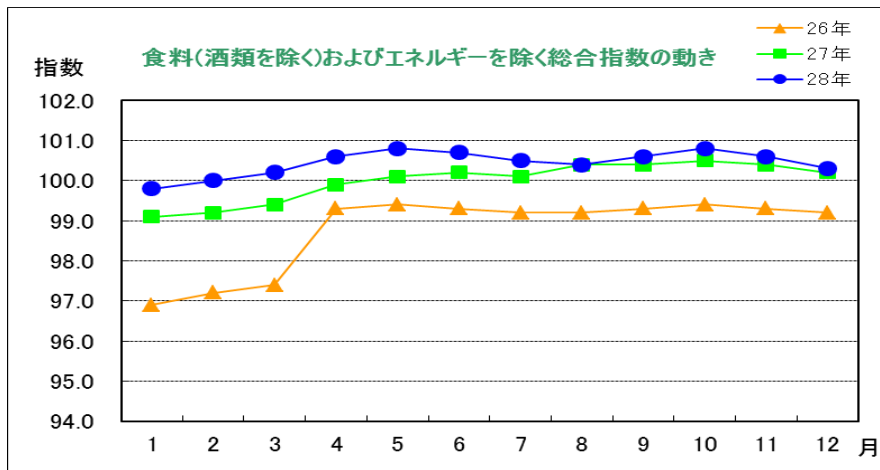
(図-4)



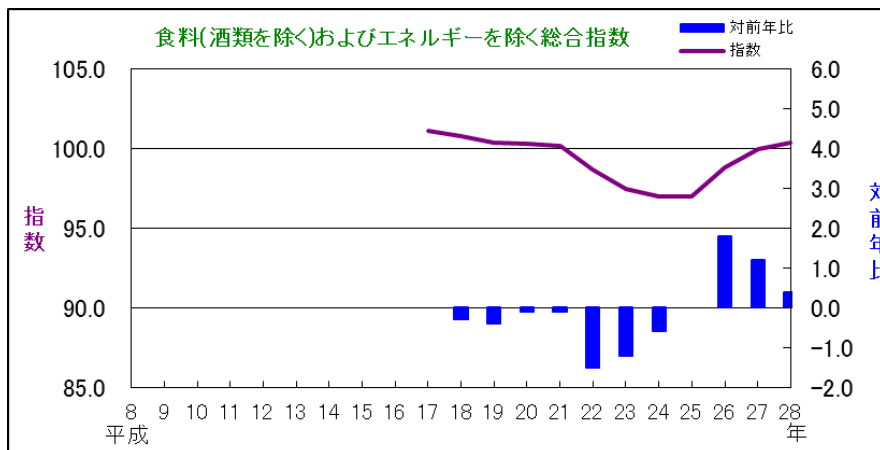
(図-5) 生鮮食品を除く総合指数と対前年比(平成27年基準)の動き



(図-6)



(図-7) 食料(酒類を除く)およびエネルギーを除く総合指数と対前年比(平成27年基準)の動き



3. 総合指数の前年比に対し寄与の大きかった中分類指数等

● 上昇した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

生鮮野菜[食料]	(+)	5.6%
生鮮果物[食料]	(+)	12.0%
外食[食料]	(+)	1.8%
生鮮魚介[食料]	(+)	6.7%
教養娯楽サービス[教養娯楽]	(+)	1.0%

● 下落した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

ガス代[光熱・水道]	(-)	14.9%
自動車等関係費[交通・通信]	(-)	2.9%
電気代[光熱・水道]	(-)	4.7%
他の光熱[光熱・水道]	(-)	23.7%
家庭用耐久財[家具・家事用品]	(-)	3.2%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物）については、小分類指数です。

注) 寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

4. 10大費目指数と前年比および寄与度

平成27年=100

10大費目名	指数	前年比(%)	寄与度	寄与の大きい項目 (中分類等・対前年上昇率)
食料	102.4	2.4	0.64	生鮮野菜 5.6
住居	99.9	-0.1	-0.01	家賃 -0.2
光熱・水道	93.3	-6.7	-0.50	ガス代 -14.9
家具・家事用品	99.3	-0.7	-0.02	家庭用耐久財 -3.2
被服及び履物	101.1	1.1	0.05	洋服 2.3
保健医療	101.2	1.2	0.05	保健医療サービス 1.5
交通・通信	98.3	-1.7	-0.24	自動車等関係費 -2.9
教育	101.1	1.1	0.04	授業料等 1.4
教養娯楽	101.1	1.1	0.12	教養娯楽サービス 1.0
諸雑費	101.0	1.0	0.06	他の諸雑費 1.3

注) 寄与の大きい項目は、各10大費目に対する寄与度が最大の項目のみ掲載しています。

【参考】近年の総合指数の動き

ここ数年の総合指数の対前年上昇率をみると、平成20年は、総合指数は原油価格高騰の影響を受け、食料、交通・通信、光熱・水道の各指数が春から夏頃にかけて近年にない伸びで1.3%上昇しました。また生鮮食品を除く総合指数も1.2%上昇しました。

平成21年は、10月頃まで交通・通信が前年を大きく下回って推移したことなどから、総合指数は0.8%下落しました。交通・通信には自動車ガソリン等の数値が含まれることから、前年の急激な原油価格高騰の反動も影響しているとみられます。

平成22年は、高校授業料無償化により教育の指数が4月以降下落したこと、また住居費や食料関係費等が年間を通して前年および前々年を下回る水準で推移したことなどから、総合指数は1.4%下落し、平成14年と並び過去最大の下落幅でした。生鮮食品を除く総合指数も総合指数と同様に1.5%下落しました。

平成23年は、ガス代や電気代などの光熱・水道の指数が3月の東日本大震災以降上昇しましたが、住居費や教養娯楽費等が前年を下回る水準で推移したことから総合指数は0.6%下落しました。生鮮食品を除く総合指数は0.7%の下落、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数も1.2%の下落となり、総合指数と同様前年および前々年を下回る水準となりました。

平成24年は、ガス代や電気代などの光熱・水道の指数が1年を通じて前年を上回る水準で推移しましたが、テレビやパソコンといった教養娯楽用耐久財が大きく下落するなどし、総合指数は0.2%下落しました。

平成25年は、食料が8月頃まで前年を下回る水準で推移したものの、5月の電気代の値上げにより光熱・水道が上昇し、またガソリンを含む交通・通信が後半にかけて前年を上回る水準で推移したことなどから、総合指数は0.3%上昇しました。

平成26年は、4月以降、消費税率改定の影響を受け、食料、光熱・水道、交通・通信、教養娯楽、諸雑費の各指数が前年を大幅に上回っており、総合的に高い水準で推移しました。また、総合指数は2.6%上昇しました。

平成27年は、食料が年間を通して前年及び前々年を大きく上回る水準で推移しましたが、一方で交通・通信が4月以降に、光熱・水道が5月以降に前年を下回る水準で推移しました。また、総合指数は1.5%上昇しました。